

哀愁 (Waterloo Bridge) 原語・字幕付き

観賞日 2026年5月11日 上映時 108分

【概要】

制作 1940年 アメリカ

監督 マーヴィン・ルロイ

脚本 S・N・バーマン他

原作 ロバート・E・シャーウッド

音楽 ハーバート・ストサート

撮影 ジョセフ・ルッテンバーガー

出演 ヴィヴィアン・リー (マイラ・レスター)、ロバート・テイラー (ロイ・クローニン)
ルシル・ワトソン (マーガレット・クローニン)、バージニア・フィールド (キティ)



【あらすじ】

ヨーロッパで第二次世界大戦が勃発した 1939年9月、ロンドンのウォータールー橋。イギリス陸軍のロイ・クローニン大佐は橋にたたずみ一生忘れることのできない若き日の思い出に耽る。

1917年、第一次世界大戦下のフランスへの出征を控えたクローニン大尉はウォータールー橋で、バレエ団のダンサー、マイラ・レスターと出会う。若い二人はたちまち魅かれあい、その晩デートをする。翌日再会した二人は結婚と挙式を約束する。しかし、ロイの出征が早まり約束は履行されないままに別れる。さらに悪いことに、マイラはバレエ団の規則を破ったとして親友のキティとともに解雇されてしまう。しばらくしたある日、マイラは新聞でロイの悲報を目にする。悲嘆にくれたマイラは生きるためにキティと二人で夜の女になる。

1年後、終戦でロイが凱旋帰国する。悲報は誤報でロイはマイラを実家に招く。しかし、一時とはいえ身を落としていたマイラは手紙を残しロイのもとから身を引き、思い出の地、ウォータールー橋に戻る。そしてそこでマイラは・・・。

後世の作品にも影響を及ぼした古典的メロドラマの代表作。戦争に翻弄された男女。

【解説】

■ポイント

●ヴィヴィアン・リー (1913年～1967年)

インド生まれ。6歳で祖国イギリスの修道院学校に入学。卒業後、王立演劇アカデミーに学び、映画や舞台に出演。映画で共演したローレンス・オリヴィエとダブル不倫の末に結ばれる。やがて渡米したオリヴィエを追って、ハリウッドへ。そこで大作「風と共に去りぬ」のスカレット役を射止め、39年にアカデミー主演女優賞を獲得。52年にも「欲望という名の電車」で2度目のアカデミー賞を受賞。他の代表作に本作、「アンナ・カレーニナ」など。



■見どころ

- 名家出身のエリート軍人と名もないダンサーとの身分違いの悲恋物語
- 自身の代名詞ともなったスカレット・オハラと正反対のマイラ役を見事に演じきったヴィヴィアン・リー
- マイラとキティの珍しい女の友情
- マイラを決断させた悪気のない一言
- 元祖「君の名は」(「君の名は」との相似性)
橋の上での出会い、うまくいきすぎてうまくいかない、すれちがい、悲恋